

芋井地区住民自治協議会だより

発行者 芋井地区住民自治協議会
会長 丸山 勝
第9号 平成22年11月1日発行

10月2日「元気なまちづくり市民会議」開催される

ホテル アルカディア音楽堂において、市長他関係部長及び地区住民約110名が出席し「平成22年度芋井地区元気なまちづくり市民会議」が開催されました。

市への提案・自由討議、市からの回答要旨をお知らせします。



＜提案議題1. 防災無線の拡充及び通信網の整備について＞

提案者 JAながの理事 大宮 汎

防災無線が地域全体で受信できるよう屋外子局の増設と区長不在時の対応として戸別受信器の増設を要望する。また、情報通信網の整備について、NTT東日本に事業の促進を働きかけていただき、情報格差の解消に努めてほしい。

＜回答：危機管理防災監答弁＞

当地区は、平成22年度に土砂災害警戒区域の指定が予定されている。来年度以降に同報無線の屋外スピーカーまたは戸別受信機の設置を計画している。

情報通信をとりまく環境は、ここ2、3年で大きく様変わりをしているため、市としても、民間の通信会社のサービスエリア拡大の状況や国の動向など踏まえ、地域の実情に合い、住民負担の少ない方法による情報格差の是正に向け、引き続き取り組んで参りたい。

＜提案議題2. マレットゴルフ場の設置について＞

提案者 農事組合法人 上ヶ屋林業代表理事 中澤 政信

飯綱南地区の一角に所在する上ヶ屋地区の共有地約3ヘクタールを活用し、市有施設としてマレットゴルフ場の設置を要望する。

＜回答：教育次長答弁＞

市では飯綱高原の自然環境の保全を確保するため、自然環境保全条例を制定しているが、建設予定地は、この条例区域に該当するため開発には許可が必要となる。また、許可申請前に自然環境影響調査を行なうよう義務付けられており、この調査に約1年間の調査期間が必要である。その他、森林法により、開発面積により長野県知事への許可、または市への届出も必要である。

自然環境影響調査に向けて、現地の現状を把握し検討したい。飯綱地区の観光資源としても有益であると考えられるので、他の場所で条件に合う箇所があればご相談いただきたい。

＜提案議題3. 七曲り～バードラインの整備促進について＞

提案者 飯綱高原コミュニティ協議会副会長 青木 東吾

1. 七曲りに代えて、ループトンネルやループ橋などにより、西長野付近とヘリポート付近を結ぶルートが開発が強く望まれる。研究・検討の具体化をお願いしたい。
2. スノーシェッドの整備について、下部は展望道路との交差点部分まで、上部はヘリポート入口付近までを延



伸を要望する。また、バードラインの新安のＳ字カーブと、愛宕山脇の切通しと山陰部分の２カ所については、是非、無散水消雪道路に改良のうえ、管理してほしい。

３．「荒安バイパス」は、数年前にゴーサインが出されていると認識している。早期実現を要望する。

４．バードラインの道路周りの草刈りについては、実施回数を増やし年３回に。また、早期実施を要望する。

＜回答：建設部長答弁＞

１．ヘリポート付近から西長野付近を結ぶルートを提案されているが、直線距離にして約１,２００メートル、高低差約２５０メートル程度あり、車両交通を実現させるためには、非常に難しいと考えている。市としては、戸隠・飯綱へのアクセス道路の主体はあくまでも浅川ループラインとし、七曲りは補完的な役割と捉えている。については、当面、新ルートの開発検討ということではなく、必要な改修や補修を実施し、現在の形態で維持管理していきたいと考えている。

２．七曲りのスノーシェッド延伸については、新たな施設を設けるのではなく、現在の除雪体制による維持管理で対応したいと考えている。また、路面状況も向上させるべく、必要区間について、路面排水向上と滑り止め効果があるグルーピング工（溝切り工）の実施、さらに注意喚起の路面表示などを検討したいと考えている。バードラインについては、すぐに無散水消雪施設のような新たな施設を設けるのではなく、現在の除雪体制による維持管理で対応したいと考えている。愛宕山付近については、長野側、飯綱側の両側から舗装改修工事を進めてきており、残り区間の約２５０メートルを来年度に実施する予定である。また新安Ｓ字カーブと愛宕山付近は、グルーピング工を実施する予定である。

３．「荒安バイパス」については、平成１８年当時、市へ陳情がなされ、「ふるさと農道の開通による交通状況を見極め、地区全体の道路整備の優先度を相談するなかで検討したい」と回答をしている。現在、ふるさと農道は開通し、交通環境が大きく変わっていない状況を踏まえると、事業着手にはまだ検討が必要な状況と考えている。今後とも引き続き、地元と相談していきたいと考えている。

４．バードラインについては、定期的に道路パトロールを実施し、除草・修繕を行っている。地元の皆様と相談して実施し、検証しながらより良い方法を見つけていきたいと考えている。

＜自由討議 １．芋井小学校問題について＞

発言者 芋井小中学校ＰＴＡ会長 荒井源太郎

市内では、中心市街地の通学区域特例校制度や大規模校の限定隣接学校選択制度が実施されている。中山間地でもこのような制度の導入を検討いただければと考えている。中山間地域での今後の学校のあり方や具体的な取り組みについて、考えをお聞かせ願いたい。

＜回答：教育次長答弁＞

「通学区域特例校制度」は、中心市街地３つの小学校がそれぞれ適正規模校として存続できるか、将来の方向性を決める目的で実施したものであり、この制度は３校限定の制度である。また、「限定隣接学校選択制度」は、市内の大規模校の学校規模の適正化を目的として実施している制度である。

今後も中山間地域の学校においては、児童生徒数の減少が予想されるが、単に減少だけを理由として小中学校の存廃を論じていいとは思っていない。また、小規模校化しても、そこで学ぶ子どもがいる限り、少人数の良さを生かしたきめ細かな教育の充実を図りつつ、子どもたちの将来を見据えた最善の環境を整える責任があると考え。教育委員会としても、他市において採用している、市内どこからでも通学を可能とする「特認校制度」も参考に、中山間地域の学校のあり方を検討していく必要があると考える。

＜自由討議 ２．林業センターの借用について＞

発言者 飯綱高原コミュニティ協議会副会長 内田幸一

飯綱高原には地域住民のための集会所や子どもたちの児童館や高齢者の憩いの場などの施設がない。については飯綱高原の「林業センター」を使用できるよう配慮をお願いする。

＜回答：産業振興部長答弁＞

林業関係での利用が減っており、また、耐用年数も過ぎていることから、すでに所期の目的を果たした施設と考えており、今後のあり方について検討している。老朽化や耐震性への対応、維持管理費の負担など課題はあるが、地域の皆さんの公益活動の拠点として利用が可能であれば、活用してもらいたいと考えるので、今後、地域の皆さんと協議・検討していきたい。なお、当面の使用については、使用料は減免できるので芋井住民自治協議会が市と協定を結ぶ方法でお願いしたい。





《自由討議 3.（仮称）自治活動センターの整備について》

発言者 芋井地区民生児童委員協議会長 西澤 定 男

住民自治協議会では、ボランティア活動の拠点や地域の課題への新たな取り組みに多くの地区住民の方々が活動に携わる見込みであり、これらの活動拠点整備も喫緊の課題となっている。ついては（仮称）自治活動センターとして、ながの農協裾花支所旧芋井支店を整備し、維持管理をいただくよう提案する。

《回答：地域振興部長答弁》

ご要望の「ながの農協裾花支所旧芋井支店事務所」は農協が建設費を拠出し、所有している施設である。民間施設を市が整備・改修することは困難であり、また、市が貸与・譲渡を受けるなどして行政財産として使用していくためには、他地区との兼ね合いや、将来のことを十分に想定して検討していく必要がある。なお、住民自治協議会が独自に農協と契約し使用していただくことは可能であるが、その際は、改修に要する経費や光熱水費等は、住民自治協議会に負担していただくことが原則となる。

一方、住民の皆さんの居場所づくりについては、住民自治協議会を中心とした地域の皆さんの熱意を強く感じている。今後とも関係者の皆さんと協議を続けさせていただきたい。

《自由討議 4. 主要地方道長野戸隠線（県道）茂菅～横棚間トンネルによる整備促進について》

発言者 芋井地区住民自治協議会事務局長 麻場 明彦

芋井地区住民自治協議会・主要地方道長野戸隠線整備促進期成同盟会では、この区間の約370メートルをトンネルにして前後の県道に接続できないか、現地調査と早期着工について、県への陳情等を強化していく予定である。中山間地の過疎化を食い止めるためには道路整備によるところが非常に大きいことから、市としても県へ強力に働きかけをいただくよう要望する。

《回答：建設部長答弁》

主要地方道長野戸隠線のトンネル整備要望については、以前に協議会及び期成同盟会から県への陳情がなされている。その際、長野建設事務所から、「整備は相当の事業費が必要であること、また、現道拡幅についても、急峻な地形により2車線改良は非常に困難であることから当面は1.5車線道路または待避所設置の改良で対応したい」と回答されている。

市としても、主要地方道長野戸隠線の重要性は十分に理解し、当面、早期の整備効果が図れるよう、他の要望区間も含め、集中的な事業費の投入及び継続的な事業実施を長野建設事務所をお願いしていきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

《市長総括》

道路問題 道路の問題については、いくつか要望をいただいたが、市内のほかの地区の市民会議でも必ず道路に関するご意見を多くいただいている。道路に係る国の予算が極めて厳しくなっているので、全体の枠組みで考えると道路に予算が廻らないというのが事実である。

市としても道路の重要性は認識しているが、国からの補助金と長野市の予算で事業を実施するというのが地方自治体の姿であり、長野市の財政力では残念ながら今回の要望は極めて厳しいのではないかなと思う。七曲りはすごい急傾斜である。そのような地形に道を造るとなれば技術的にも難しいと思う。昭和60年の地附山災害後にバードラインに替わって浅川のループラインを県が整備した。行政とすればこちらの道路がメインであると考えている。全体的な予算が少ない中、特に道路予算が少ない中では正直、難しいと感じている。

農家民泊 農家民泊については、芋井でも来年は200人からの実施が始まると聞いている。長野市内では大岡、鬼無里及び信更地区でも行っているが、全国的に農家民泊が広まってくれば、競争が激しくなると考えられる。ひとつでもマイナス面があれば評判を失う危険性もあると思う。地域の活性化や経済的には大変良い事業なので期待している。

J A店舗 J A店舗を住民自治協議会で使用することについては、この話を始めて聞いた時は「すぐ使用すればいい」と思った。しかし、ほかの地区では例がなく、ほかの地区からも同様の要望をいただくようになると思う。そのすべてに対応することは困難であるため、公平、公正を考えると、難しいということになる。何とか良い方法を考えるということで指示しているので、皆さんと一緒に考えていきたい。

マレットゴルフ場 マレットゴルフ場の設置については、平成15年に飯綱高原の乱開発を防ぐために自然環境保全条例が策定され、区域が設定された。マレットゴルフ場の要望をいただいた場所は、保全区域に指定されているため、マレットゴルフ場を造るとすれば、お金と時間がかかるということをご理解いただきたい。





芋井地区総合防災訓練実施

9月5日（日）9時30分、住民自治協議会主催により、市内で震度6の地震が発生したとの想定で、芋井地区総合防災訓練が実施され、避難訓練・情報収集伝達訓練・救護訓練・炊出し訓練等を猛暑の中、参加者全員が真剣に訓練を行いました。



救護訓練



炊出し訓練

芋井ゲートボール大会開催

8月21日（土）芋井ゲートボール大会が、広瀬の芋井運動場で開催されました。

炎天下の中、総勢180人以上32チームという大編成で、初心者からプロ並みの人まで、好プレー珍プレーが続出、老若男女全員が楽しみました。



地域福祉ワーカーを採用しました

10月1日から地域福祉ワーカーを採用しました。地域福祉ワーカーは、地域の特性に応じて地域福祉を推進していくための地域福祉活動計画づくり、地域福祉に関する相談、及び地域福祉活動に関する事務を主な業務として活動していきますので、よろしくお願いします。

地域福祉ワーカー 小島文子（問い合わせ先は住民自治協議会事務局と同じです。）

